

## 技術職員による学生・若手研究者に対する装置製作実技指導について

研究支援技術部 工作室

### 目的・効果

技術部職員の実地指導のもと、自ら使う装置を製作することにより、学問だけでなく装置製作技術も身につける。これにより見識を高め、研究者として自立する時の一助にする。

担当教員を含め相談して決めた製作課題の達成とそれに必要な技術の習得を目標とする（余裕があれば、興味がある技術も習得）。

- ・装置開発結果等を卒論や実験にアウトプットする(謝辞, 共同出願などをお願いする)。
- ・一定レベルに達した場合に技術部から認定書を出す。

### 指導対象者と内容

- ・実技指導を受けることが出来る者：触媒科学研究所所属の学生または若手研究者

(受講終了までの一定期間, 授業や研究の空き時間に技術部で技術習

得する)

安全面からコミュニケーションがとることが出来ないとは判断された場合には、不可とすることがある。

1. 申請者の希望。
2. 技術部で面接する。
3. 所属部門の教授の許可を得る。

※受け入れ可であった場合, 担当教官, 担当技術職員, 指導対象者で目標, 期間等の設定を行う。

・「研磨のみ」など短期の受け入れも可能とし, 指導対象者の状況に応じた指導体制を取る。(期間による区別は例に記載)

目標達成を一つのゴール(区切り)にして, 継続するかは要相談。

・短期の研修については随時受け入れ可能、長期は枠が空き次第技術部から全体へ連絡する。

## **例 短期の一例**

ガラスの切断技術習得

内容：カーボンカッター、ガラス切りを用いた精度の高いガラス切断技術の習得

目的：実験に使うガラスサンプルを精度良く切断するため。

安全にガラスを切断し、ガラス切断中の不意なガラス破損によるけがを防止するため。

期間 2 日間 （対象者の都合に合わせて 1 日 3 時間×2 など）

学生 XX 名

## **例 長期の一例**

金属工作機械の操作技術習得

内容：一般的な工作機械（旋盤、フライス盤、ボール盤）の操作を学習し  
実験装置の一部を製作する。

目的：現在使用している実験装置の一部を自作し、既製品のままではできない実験を行う。

使用している実験装置を改良することにより、実験結果の精度を高めていく。

期間半年～1 年（期間内に装置製作まで行う）

**※長期的な受け入れは、各工作室定員 1 名**